

Finding You!

市立札幌開成中等教育学校 充実期6,7期生 通信
発行:令和2年12月24日 木曜日

No.5



“Try something new for 30 days” (日訳) イッチャレ【動】

いよいよ待ちに待った冬休みですね。毎年、同じ後悔をしてしまっている君！今年こそは、胸を張って「やったぜ！」と声を大にして言える冬休みにしようね。方法の一つは「いっちゃレ」です。ぜひ投げ出さず、最後まで続けてみてください。一緒に頑張りましょう。

「いっちゃレ」では日々の行動が大切で、成果は問題ではありません。しかし日々の生活の中で、私たちはどうしても「成果」に目を向けがちです。ひどくなると、「成功や成果なき努力に価値がない」なんていう極端な考え方の人もいるかもしれません。思うような成果が得られないと「自分には才能がない」とか「何度やっても無駄だ」なんて考えてしまう人いませんか？

努力の末に思うような「成功」や「成果」を感じられないのであれば、それは「**努力がまだその基準を満たしていないだけ**」か「**そもそも成功や成果の基準が間違っている**」かのどちらかです（多くは後者が理由です）。努力とは行動です。「努力（行動）なくして、成功や成果はない」と考えると、この「いっちゃレ」はまさにその努力（行動）の練習なのです。

最後に、「結果がすべてだ」という言葉を聞いたことありませんか？結果がさも終焉のような意味合いに捉えられていますが、大切なのは「結果の後」です。結果を振り返り、次への努力（行動）へと繋げられるかが大切です。努力（行動）が結果を生み、振り返りのチャンスを与えてくれるのです。私たちの成長は止まりませんね。

冬休み明けの皆さんの「いっちゃレ報告」を楽しみにしています。

充実期主任 黒井 憲

古き良き日本のお正月のすすめ

コロナに始まりコロナに終わる、そんな1年。親戚の家に行くのも初詣も自粛かもしれません。出かける機会が極端に減る…。書きながら何だか切ない気持ちになってきました。古き良き時代の日本のお正月が失われつつある中、少し日本のお正月をリバイバルさせて、すごろくとか福笑いとか、家族で楽しくやってみては？人のいない場所があれば風揚げでもどうでしょう。家族の時間を大切に作る時間に出来たら、少しは良い思い出にできるかもしれません。



3a 担任 小林 純恵

科学の甲子園北海道大会 準優勝しましたー!!

10月25日、科学の甲子園北海道大会に本校から2チーム出場しました。この大会は、理科（物化生地）・数学・情報から出題される問題を、チームで力を合わせて挑戦します。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、記述の試験のみ（毎年、実験等の実技がある大会です）でした。そして、本校の4年生4名（上村、北山、森原、水嶋）、5年生2名からなる学年混合チーム「5000兆円欲しい！」が見事（惜しくも!?) 準優勝！おめでとう！そして来年こそは目指せ全国大会!!

4a 担任 井上 慶太



今年度初の校外学習！！

11月の下旬、今年度初の校外研修としてウポポイ(民族共生象徴空間)にて研修を行いました。

事前学習では「アイデンティティとは何か？」を軸に考えてきましたが、みんなは何か新しい発見や気づきを得られたでしょうか？研修後に「今まで学んだ日本の歴史との違いを感じた」、「本当に今でも存在している人々なのだ実感した」などの声がありました。

博物館ではアイヌ民族が実際に使用していた道具(鮭の皮で作った靴や弓矢)などの実物や、暮らしや考え方が分かりやすくまとめられた映像などがありましたね。みんなが真剣に展示物の説明を読んだり、意見を交わしたり、アイヌの方に質問をしながら何かを得ようとしている姿が印象的でした。アイヌの方からは展示物だけでは分からない生の声や知識を教えてくださいたいのではないのでしょうか。

研修を終えて何か1つでの多文化や他者についての考えを深めてくれたらうれしいです。これから

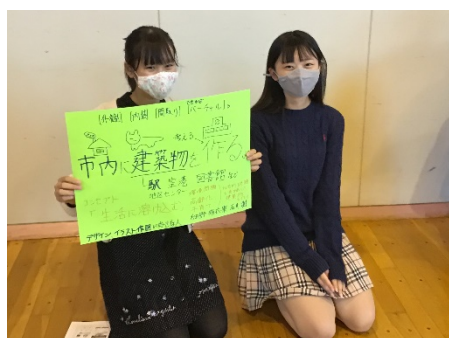
自分と他者のアイデンティティについて考え続けてくれることを願っています。

4c 担任 道下 祥伍



3, 4年共同課題研究(コズモプロジェクト)の取組

金曜3セッション目に行っているコズモプロジェクトでは、10月から3, 4年生が合同でグループを



組み、共同で課題研究を行っています。具体的には、各グループでエネルギー、防災、資源、都市・交通、健康・スポーツ、国際理解、などのカテゴリーから課題となるテーマを設定し、例えば「台風に負けない家をつくる」、「ガラスが黒い理由の逆説的な根拠」、「学生向け避難所運営マニュアルの作成」、「動物の空気抵抗をロケットに応用する」など、65グループがさまざまなテーマで、実験や調査活動を行っています。12月末となった現在は、各グループがデータをさまざまな方法で収集している段階です。

探究活動は、思ったようにはうまくいかないことの連続です。今、生徒達はその真っ最中であり、たくさんの試行錯誤を学年を超えて協働してほしいと思います。3月の成果報告会に向けて、ガンバロー！

4a 担任 井上 慶太

